

タイトル	第2回アカマツ人工林森林施業技術交流会
実施年月日	平成26年1月16日(木)
実施場所	岩手県久慈市宇部町三崎山国有林95林班外
参加者	局署：三陸北部森林管理署、三陸北部森林管理署久慈支署 12名 外部：南部アカマツ振興センター、県北広域振興局、洋野町、18名 岩手県森林組合連合会、森林組合、林業事業体等 計30名

【取組の概要】

久慈地方には天然アカマツとして名高い「侍浜マツ」が生育しており、南部アカマツ振興センターにおいては「アカマツの復権とブランド強化」の取組が開始されている。当支署管内の人工林の樹種別割合はアカマツが55%となっており、その齢級は5～9齢級が9割を占め、間伐を中心とする森林整備の時期を迎えている。

このことから、地域関係団体と連携を深めながら、森林施業の技術交流により地域の森林資源の活用と産業の活性化等に繋げる必要がある。

【取組の成果】

今年度についてはアカマツの採材に着目し、現地で参加者全員によるアカマツ全幹材の採材検討を実施。実際に玉切りを行い、隠れ節や曲がりといったアカマツに多く見られる欠点を確認しながら、買い付け業者の購入・注文状況と照らし合わせて有利販売へ向けた今後の販売供給のあり方について確認をすることができた。

また、木材価格の動向や松くい虫被害の状況、バイオマス発電計画等について現状を整理し、アカマツ人工林施業の展開について幅広く意見交換を実施することができた。

【出された意見】

- ・4m、5m等の長材は需要としてあるものの通直材のみで、これくらいなら大丈夫というような曲がりの許容は一切妥協がなく、結局は2mに落として販売しているケースが多々あり。

- ・アカマツの曲がり材はタイコ梁としての活用方法はあるものの、建築材としては手間とお金がかかるためあまり需要は見込めない。

- ・間伐材は節がないように見えても必ずあるという目で見られる。特に死節は縁起が悪いということで関西圏の業者には買い控えされるので注意が必要。

- ・復興や消費税増税等に伴う駆け込み需要により木材価格は上昇傾向。ハウスメーカーもまだ原木が足りていないようで今暫くは価格の上昇に期待が持てそう。注文は増えてきていると実感している。

- ・バイオマス向けの原木供給について協力要請はあるものの、価格提示がはっきりしないため保留にしている。民有林は今のところ大きな動きはないが、価格次第では動きが出るのではないかと。

【今後の課題】

アカマツ材については、節や曲がり等の欠点が強いため造材歩留まりが低くなる傾向にあるが、バイオマス供給用として端材の集荷を低コストで実現できれば、間伐収入の増加も見込まれ、アカマツ人工林の積極的な森林整備が図られるものと考えられる。

なお、今後増加が見込まれる原木供給にあたっては、計画的な民有林施業の推進が必要不可欠であることから、南部アカマツ振興センターを軸に協力体制をとりながら、未利用材の集荷手法の確立についても連携して進めていきたい。

タイトル 第2回アカマツ人工林森林施業技術交流会



参加者による採材検討



単木毎の欠点を踏まえた採材方法の確認



造材結果を踏まえ検証



断面から見る採材検証



意見交換の様子



地元製材業者の意見